

高いゆるみ止め効果を発揮する フランジ型ゆるみ止めボルト 「カップボルト[®]」を新発売

日東精工ではグループ会社の協栄製作所とともにファスナー新製品「カップボルト」を新発売しました。今号ではこの「カップボルト」開発の背景をファスナー事業本部技術部部长* 濱野真一が解説します。

「この『カップボルト[®]』は既に製品化され高評価を得ている『カップスクリュー[®]』をベースにしたものです。当社は精密ねじ、極小ねじを得意としています。日東精工グループには協栄製作所や東洋圧造など太モノを得意とするところもあります。協栄製作所から取引先に新しい提案をしたという話を受け、これまで呼び径6mmまでの『カップスクリュー』をサイズアップしようと開発に着手しました。単純に小さなものを大きくすればいいということではなく、強度などを安定させる調整が必要でした」(濱野)。

ファスナー(工業用ねじ)の重要なファクターのひとつが「ゆるまない・ゆるみにくい」ことであり、当社ではゆるまないさまざまなタイプの製品を開発。省力化、軽量化、省コストなどの用途に対応しながら販売しています。たとえば、受験生応援ねじなどにも転用している樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」(これはねじ山部分にゆるみにくい加工を加えたもの)や、「NKグリップ」(軸部に装着したカプセルから締結時に接着材が流れ出るのもの)などがありますが、カップボルトは詳

細を次ページで解説していますように、ねじの頭部に工夫をこらした(座金、ワッシャーとねじ頭を一体化)したものです。

『カップスクリュー』はじつは私が入社する前にはすでに製品化されていたもので、30年以上販売し続けているロングセラーです。加工もしやすく家電製品から自動車部品などへと汎用性があり、どちらかといえば我々にとっては〈身近なねじ〉だったのですが、今回、建材メーカーさんのご担当から「ほんとうにすごいねじですね」と高く評価

され、あらためて当社の先達の技術力に敬意を表すと同時に、ラインナップも広がり、まだまだいろいろなところに販路を広げられると可能性を感じました」(濱野)。

呼び径が8mm未満のサイズ(φ3~6mm)は「カップスクリュー」、呼び径が8~16mmまでのものを「カップボルト」として製造販売。呼び径8mm以上の「カップボルト」は協栄製作所で製造をはじめましたが、日東精工グループ全体で技術と販路を共有し、シナジー効果を高めていきます。

※2024年3月現在の所属



IR説明会をオンラインで開催 個別取材も実施しました

本年2月27日に(株)日本投資環境研究所の協力のもと「2023年12月期決算説明会」を開催しました。

今回はweb形式での説明会で、機関投資家やアナリスト、メディア関係の方々に向けて、当社代表取締役社長兼COO荒賀誠が決算概要を丁寧に解説しました。また投資家向けに4月8日には工場見学会も企画するなど、当社の技術力や事業戦略をより深く理解していただき、ご支援いただけるようにこれからも尽力してまいります。



文字起こしサイト



公式YouTube

BSフジで当社のねじが 取りあげられました

3月9日に『もしもで考える…森田健作のなるほど! なっとく塾』(BSフジ) というテレビ番組で「もしもネジがなかったら?」という企画があり、当社が番組協力をしました。下の画像(米とねじΦ0.6mm×0.9mm)をもとに「どこに使用されているでしょうか?」というクイズが出題(答えは腕時計)されたほか、番組出演者7名が「極小ねじ締め体験キット(Φ0.6mm×0.9mmの極小ねじ)」で実際に締め付け作業を体験する様子が放映されました。



写真の紹介の際にテロップで「画像協力: 日東精工」と表示され、極小ねじの弊社製造という技術力の高さも番組内で訴求できたと考えています。その他、1.6mm以下のねじはゲーム機・カメラ・携帯電話・精密機器などに使用されていることも紹介されました



NITTOSEIKO'S SDGs (サステナビリティ経営推進)

スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー2024」に認定されました

当社では国連のSDGs(持続可能な開発目標)の理念に賛同し、サステナビリティ経営を推し進めています。SDGs 17の目標のうち3番めの「すべての人に健康と福祉を」に関しても、「健康経営」を掲げさまざまな施策を行っています。具体的には、健康経営推進部会を発足させ、重点課題に「労働生産性向上」「ワークエンゲージメント向上」を掲げ、その取り組みとして従来から実施している「朝のラジオ体操」や「野球、バドミントンなどの部活動」に加え、体力作り強化月間を制定し、体力年齢チェックの実施や「Nicotto 7(ニコット7)*1」を立ち上げてチャレンジしています。



「スポーツエールカンパニー」の認定は当社は2021年より4年連続、日東公進は3年連続の認定

そういった取り組みのなかで、今般、スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー2024」に

認定されました。「スポーツエールカンパニー」とはスポーツ庁の認定制度であり、従業員の健康増進のために「スポーツの実施に向けた積極的な取り組み」を行っている企業を認定するものです。企業が各々の従業員がスポーツを実施するきっかけづくりを行うことで、従業員の健康増進につなげ、ひいては国民全体のスポーツ実施率の向上・企業の社会的評価の向上を目指すものです。今年度は全国では1,246社、そのうち京都北部からは当社および日東公進が認定を受けました。



※1「Nicotto 7」について
健康経営の一環として、生活習慣病リスクの改善を目的とした7つの取り組みの名称。KPIを設け、健康的な生活の習慣化・定着による健康リスクの軽減と、活力ある職場づくりに取り組んでいます

予定されている成功などない

代表取締役社長

荒賀 誠

故

・下村脩博士がノーベル賞受賞の記念講演会に招かれたとき、若い参加者に「成果が出ず、行き詰ったときはどうすればいいか」と問われ、少し考えてから「がんばれ、がんばれ」と答えたそうです。博士はへしのごの言わずに努力しろ」と突き放したように感じられることを懸念されたようですが、結局「がんばれ」という単純な言葉に尽きると思い、口にされたのです。もちろん心を病んだり、被災したりしている人に迂闊な「がんばれ」は逆効果になるといわれ、それはもつともなことだと思えます。ときに立ち止まること、休息することも必

要。慌てない、あせらないことも大事です。しかし「無理をする」ということと「がんばる」ことを混同し、「がんばらなくていい」「がんばることは時代錯誤」と考えるのは、これは大いなる勘違いです。

下村博士の「がんばれ」に言葉を補えば「失敗を糧にして逃げないで」「あきらめず力を尽くせ」ということでしょう。「予定されている成功などはないのだ。日本の若い人たちに重ねていいたい。がんばれ、がんばれ。物事を簡単にあきらめてはだめだ」(下村博士)。

これからも「がんばれがんばれ」を大切にしていきたいと思えます。

「幸せ」を見つけるヒント ——— 4月

本はいつでも自分を成長させてくれる糧

当社が本社をおくあやべの「ことばの泉・ねじ文庫」で「あやべあんな人こんな本!」というイベントがあり、私も荒賀社長も、特例子会社日東精工SWIMMYの檀野社長も、そして協力会社からも何人かがお薦めの本を選んで紹介しました。市長や府会議員、市議会議長をはじめ、商店主、学校の先生、そして市の図書館スタッフと……さまざまな人が参加され、「本」はUターン、Iターン者、もともとの人それぞれをつなげる、わかりやすいキーワードであることをあらためて実感しました。

そして、いつもなら自分では手にとらないような本が自分の視野のなかに入ってくる、あの人がお薦めするならば、ちょっと気になっちゃうのもおもしろく、ねじも本もモノとモノ、人と人だけでなく、過去現在未来をつなげる大切なものとわかります。



お薦めの本は展示されたほか、小冊子にもまとめられました

日東精工代表取締役会長 材木正己
綾部商工会議所会頭

